

マルチステークホルダー会議 御中

お客さまとともに

レジ袋削減と店頭回収の取組

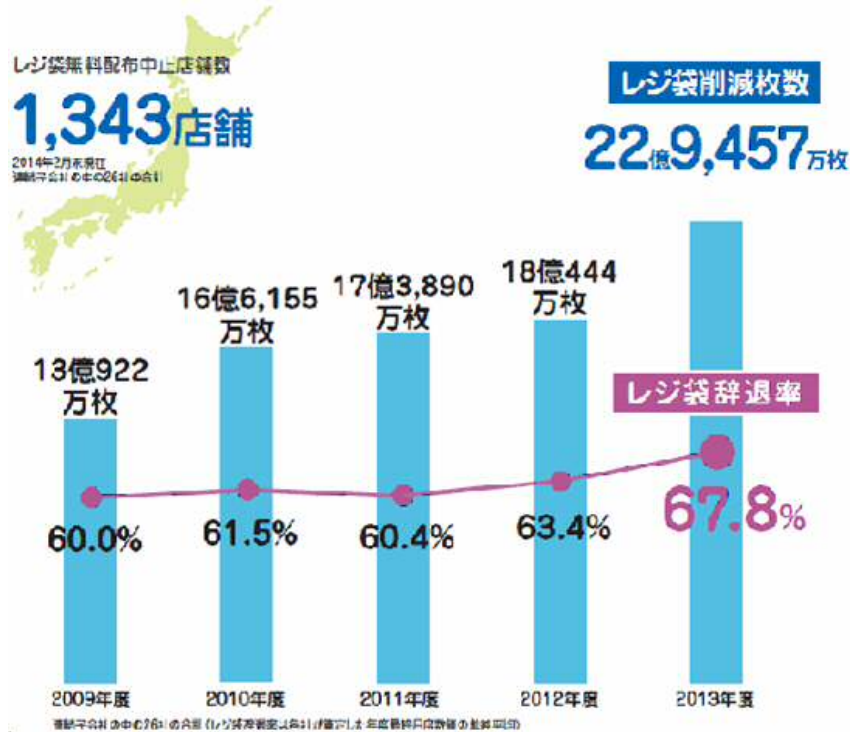


2014年8月20日
イオン(株)グループ環境・社会貢献部
金丸 治子

お客さまとともに～地域との連携

①レジ袋削減の取り組み

1991年から買物袋持参運動を開始。



2011年6月からは、植物由来材料を主原料とした有料レジ袋を導入し、使用量削減とともに、レジ袋そのもののCO2排出量削減にも貢献

2009年から有料レジ袋の収益金[※]全額を環境保全活動に役立てていただく取り組みを開始

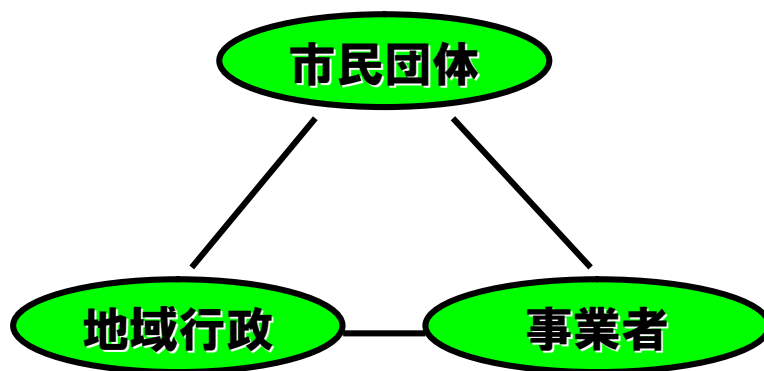
2013年度の
収益金 約 **3,825** 万円
自治体などを通じて地域の環境保全活動に寄付

※有料レジ袋の収益金：売価－(消費税+仕入原価)

■レジ袋削減の地域協定を締結

- ①市民団体、地域行政、事業者でレジ袋削減の協議会を設置。
- ②同協議会で多数回に渡る協議を実施。
- ③3者が「レジ袋削減の協定」を締結し、無料配布中止を開始

イオングループの中の26社合計
1,343店舗で無料配布中止
(2014年2月末)



行政・市民・事業者のコンセンサスづくりが課題

■レジ袋販売による収益金の活用

レジ袋収益金は、店舗が所在する自治体、地域の市民団体などに環境保全活動などの活動資金として寄付。

2012年度の収益金は、
約 **3,825万円**

自治体などを通じて地域の環境保全活動に寄付。

*有料レジ袋の収益金: 売価 - (消費税 + 仕入原価)

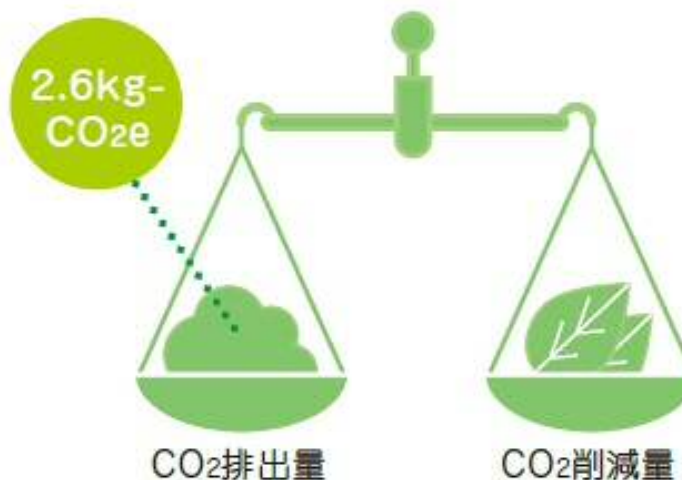
「バイオ・マイバスケット」で
「どんぐりキャンペーン」に参加

バイオ・マイバスケットを
「どんぐりマーク」対象商品と
し、2014年3月から販売開始。



バイオ・マイバスケット

「バイオ・マイバスケット」の
カーボン・フットプリント算定結果



「どんぐりキャンペーン」とは

経済産業が実施している事業で、「カーボンオフセット」によって、商品・サービスから排出されるCO₂を実質「ゼロ」にした目印として、「どんぐり」のマークをつける取組。

②店頭リサイクル回収

アルミ缶や紙パックを店頭で回収して、資源の循環に役立っている。



イオングループ中の24社合計



トイレットペーパー、ティッシュなど



再生プラスチック製の文具、雑貨、トレイなど



繊維、再生プラスチック製品など

③その他店頭回収などの取組

SELF  SERVICE

お客さまに以前購入いただき、不要になった衣料を回収。まだまだ着られるものはそのままの形で海外へ(Reuse)、それ以外のものは、素材に戻し、新たな製品として再生しています(Recycle)



2013年は約18000枚回収


COMPANY LIMITED

MOTTO! CIQUETO
PROJECT
(モット チキュート
プロジェクト)



おうちで眠ってる
古着、回収します

回収できるもの
・他社製品含む、衣料品 (のびんやペットボトルは除きます)

お役立ち

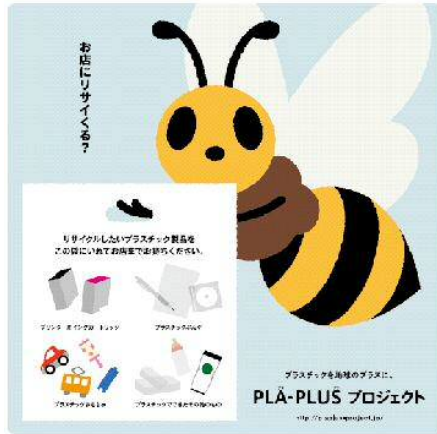
- RE-WEAR 再び衣類として活用
- RE-USE ワエスの原材料として使用
- RE-CYCLE 炭酸水のトラックやクッション材、断熱材へ
- ENERGY 熱を利用したエネルギー生産

〈私たちは地球環境に貢献します〉

smart life ikka  VENCE CURRENT

④行政・地域・他事業者等との連携

プラスチックを地球のプラスに。 PLA-PLUS プロジェクト



環境省事業

プラスチック製品の
回収・リサイクル実証
社会実験への参加

【小型家電回収】 自治体に協力



【紙業者と連携した古紙回収の取組例】



イオンモール
(協力:国際紙パルプ商事)



マックスバリュ東海
(協力:松岡紙業)

【ペットボトル回収】



例)マックスバリュ竹ノ塚店

*足立区のエコネット事業
に協力し、自動回収機
を設置

毎日400万人のお客さまが御来店



地域に密着した小売業として、店舗を起点にお客さまとともに取組を推進



地域の資源回収の拠点としての期待

【課題】

- 回収品の効率的な輸送、集約(法的制約も含む)
- 回収にかかわるオペレーション、コスト
- 回収物の適正処理(リユース、リサイクル)